

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

基本目標(1) 人を惹きつけるまなび溢れるまち ～地方への新しい流れをつくる～

(ア) 教育

(指導室)

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
1	学校満足度調査「学校は楽しい」児童生徒の割合	80% (H26年度)	年度末に行う学校評価における基礎資料となる児童生徒アンケート結果から積算	85%	86%	86%	89%	92%		令和元年度末に新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休校があったが、授業や学校行事はほぼ平常どおり実施されていることから、各校からの積算データでは、目標値の達成が図られている。	コロナ禍での学校休校により、生徒への影響が懸念されたが、非常に高い実績値であり大変よいことである。しかしながら、今後もこのような状況は継続されると思われるため、継続的な確認及び取り組みを期待する。 また今後は「楽しい」の定義についても少し掘り下げる必要があると考えるため、その点について今後期待する。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

(イ) 観光・イベント

(スポーツ振興課)

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
2	ビーチスポーツ・マリンスポーツを通しての集客人数	新規	【集客】 ○ビーチバレー 約3,000人 ○マラソン 約1,500人 【参加者】 ○ビーチバレー 442人 ○マラソン 2,932人	6,453人	7,045人	7,763人	8,535人	7,874人		平成27年度より事業展開してきたビーチバレー大会、マラソン大会は回を重ねるごとに課題を改善し、目標を概ね達成してきたが、ビーチバレー大会においては、R1年度よりプロ大会がなくなった影響もあり参加者が伸び悩んだ。今後は、イベントに合わせビーチバレー教室等を企画するなど、参加者がビーチスポーツに触れる機会を創出し、長井浜公園と併せた日常的な交流人口の増加を図る。マラソン大会は、地元企業の協賛・ボランティア数も増加しており、地域のイベントとして定着してきている。2020大会は50回記念大会であったため、Tシャツやオリジナルタオルなどの参加賞をブラッシュアップした他、警備やシャトルバスの便数を増やし、ランナーが安全かつスムーズに参加できるよう改善したことで、実施後のアンケート調査でも「また参加したい」が98%と高評価を得た。今後、さらに運営や事前周知に工夫を凝らし、海岸地域の魅力発信・ビーチスポーツの拠点化を推進することで、年間を通じた交流人口の向上に努める。	ビーチバレーのプロ大会未開催ということもあり、目標値未達となっていると思われる。今後のイベント開催方法については、コロナ禍を意識した開催方法を模索してほしい。あわせて、市民また市外住民のイベント参加者数増加を期待する。	

(商業観光課)

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
3	市の観光PRポータルサイトのアクセス数	新規	観光ポータルサイトのアクセス解析ツールを利用し、アクセス数を集計(平成27年度は試験公開中のアクセス数を元に積算)	1,400PV	112,679PV	202,523PV	252,000PV	355,200PV	400,000PV	サイトの周知、掲載内容の更新、見直しをこまめに行った結果、毎年アクセス数を伸ばし、目標値を上回る結果となった。特に季節のイベント情報は閲覧数が多くなっており、引き続きアクセス解析を実施し、利用者のニーズに合った内容となるよう努めたい。	細やかなPRができてきていることもあり、高い数値目標も達成状況で大変喜ばしい状況である。今後はサイトへのアクセス数のみならず、サイト離脱までの時間も把握するとともに、他のページへの誘導するなどして回遊性を高めるよう工夫してほしいと考える。	R1年度の実績値がR2年度の目標値を上回ったため、上方修正。

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

(ウ) 移住・定住

										(総合政策課)	
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
4 移住に対する相談数	新規	移住相談件数の累計値	0件	累計5件	累計9件	累計12件	累計13件 累計20件		計画期間の5年間は、独自の移住定住パンフレットの作成、市内外での各種イベント・首脳圏での移住定住イベント等を行ったが、相談件数の目標累計値を達成できなかった。達成率65%（当初計画：目標累計10件、達成率130%） 移住者の動向としては、京築管内からの移住者が多いことが分かっているが、今後は様々な施策を展開していくことで、地域外からの移住者の増加を目指していく。次期総合戦略においては、相談件数ではなく、より直接的な目標値として移住者数を設定している。（5年間で195人増）	R2年度からの総合戦略より移住者数のKPI設定とすることで、その動向については非常に期待しており楽しみである。他市町村（京築以外）からの移住者が増加するための効果的な施策を総合的に計画し、選ばれる行橋市となるよう期待している。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

(工) 農産物・水産物の開発・高付加価値化

										(農林水産課・商業観光課)	
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
5 「ゆくはしブランド」商品の開発数	新規	行橋市地域ブランド推進計画に基づく生産物や加工品を特産品としてブランド認定したものの数	0個	累計1個	累計5個	累計8個	累計9個 累計10個		市特産のいちじくを使った「いちじくラスク」の開発を行うとともに、イベントやSNS等で特産品のPRを行った。	いちじくのみならず、他の特産品を用いた新たな商品開発されてはどうか。いちじくのみでたくさんの商品を生み出すことは継続していくことが難しいと考える。 また、JA・漁協・観光協会等で検討委員会（案）などを設立して本格的に開発に向けて議論してはどうか。 あわせて、PRをどのように行っているかも気になる。効果的なPRができるよう努力してほしい。	

										(農林水産課)	
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
6 新規就農者数	2人 (平成22年度)	行橋市青年就農給付金給付要綱に基づく経営開始型の青年就農給付金を受給した者の数 第5次行橋市総合計画の目標値ベースを採用	6人	累計8人	累計9人	累計11人	累計13人 累計14人		農業振興施策の最重要課題として関係機関と連携し、福岡市及び北九州市で開催される就農相談会へ参加しブースを設置してPR（年2回 7月・11月）活動を行った。また、パンフレット等によるPR活動を実施し、新規就農者の獲得に向け取り組みを強化している。 令和元年度は水稲及びレンコン1名の新規就農者を獲得した。	過去に就農された方々のその後が気になる。このKPIとは別に、継続的な部分の検証もしてほしい。 新たな就農者に対して、施策を行っていくことは市のみならず国全体の食糧自給率の向上に寄与するものと考えられ、その意義は大きいと考える。これからも継続した取り組みを期待する。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

(オ) まちなか活性化

										(文化課)	
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
7 行橋公募彫刻展に関する芸術家からの問い合わせ件数	新規	問い合わせ実数 公募彫刻展に対する応募件数 イベント参加者数	17件	応募件数 56件 ・ イベント 参加者数 2,042人	応募件数 31件 ・ イベント 参加者数 1,718人	イベント 参加者数 3,644人	応募件数 32件 ・ イベント 参加者数 1,235人 応募件数 60件 ・ イベント 参加者数 2,280人	イベント 参加者数 3,783人	令和元年度は、2年周期で開催しているゆくはしビエンナーレの作品募集の年であった。世界に向けて募集を行うとともに、行橋市内外に向けて次のような芸術関連のイベントを開催した。 ・子どもたちのワークショップ ・アートフォーラムvol1、vol2 ・彫刻連続講座 ・まちなかオブジェプロジェクト 応募件数が目標値を下回っており、今後募集テーマの検討と効果的な広報活動が必要であると考えられる。 また、イベントでは、まちなかオブジェプロジェクトにおいて彫刻制作場所の変更と新型コロナウイルス感染症の流行が要因となり参加者数が減少した。しかし、その中でも彫刻作家と小学生や中学生との交流会が行われ、アートに触れる機会を提供することができた。	他市町村と比較してもあまりない取組であるため、今後継続して欲しい。イベントの参加については、コロナ禍において継続していくことが困難になることも予想されるため、今後の運営方法などはその時の状況に応じて模索して欲しい。 また、市街地の整備（行橋停車場線の拡幅など）やリブリオなどの魅力ある街づくりと関係性を持たせ、市街地の回遊性を高めるための一つの施策として頑張っていってほしい。	
										(生涯学習課)	
8 図書館（複合施設）の利用客数	図書館 貸出利用 100,304人 視聴覚 貸出利用 17,277人 合計 117,581人 (平成26年度)	貸し出し人数(実数)	○図書館 貸出利用 97,841人 ○視聴覚 貸出利用 16,800人 計 114,641人	○図書館 貸出利用 92,374人 ○視聴覚 貸出利用 16,649人 計 109,023人	○図書館 貸出利用 91,588人 ○視聴覚 貸出利用 15,394人 計 106,982人	○図書館 貸出利用 85,989人 ○視聴覚 貸出利用 14,598人 計 100,587人	○図書館 貸出利用 58,047人 ○視聴覚 貸出利用 10,020人 計 68,067人 120,000人	150,000人	ブックスタート事業や読書リーダー養成講座など読書啓発に努めたが、近年の全国的な読書離れの影響下、目標値を達成することができませんでした。特に、令和元年度は新図書館への移転業務のために、令和2年1月から3月までの期間を臨時休館したことに加え、休館対応によることを踏まえて資料の貸出しを12月上旬で締め切ったことによる貸出し人数の減が顕著となりました。 今年度からはリブリオ行橋（図書館等複合施設）での新図書館として新たなスタートを切ることとなります。供用開始直後はコロナ禍による休館対応を余儀なくされましたが、児童図書や郷土資料等、公立図書館として相応しい、また多くの人が来館するような蔵書管理を進める一方で、資料提供のみならずレファレンス等のマンパワーを活用したサービスを提供する運営をしていくことで目標値達成に向けて努めていきます。	図書館移転及びコロナの影響により、利用者数が減少したことは仕方ないと思われる。 今後は新型コロナウイルス感染症の対策を万全にしつつ、図書館を利用したイベントを開催するなどして利用者数の増加に努めてもらいたい。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
 【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

(カ) 就労支援

										(総合政策課)		
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度				
9	ワーク・ライフ・バランスの啓発(セミナー回数・参加人数)	新規	セミナー回数・参加人数の累計値	0回・0人	累計3回・35人	累計7回・185人	累計11回・278人	累計13回・333名 累計14回・390人	目標値 累計3回・80人 (R6までに累計15回・400人)	令和元年度は(企業向け、一般男性向け)家事参加・子育て講座を2回開催、参加人数55人の参加があった。コロナ感染症関連の対策として、計画していた1回が開催できず、累計目標回数に到達できなかった。 (当初計画:目標累計5回・500人)参加者を増やす取り組み、また多様な対象に向けて、目標値を上回る開催回数を実施できた反面、ターゲットを絞った結果、参加者の目標値を達成できなかった。次期総合戦略においては、参加者の増加を念頭に置きながら、開催計画を立案したい。	突然のコロナウイルス感染症によりイベントの開催が断念され、計画していた人数に達しなかったのは残念である。 今後は感染症対策を万全にしたイベントの運営を求められるため、その点について意識をして運営をしていってほしい。	

【上段左: R1実績値 上段右: 修正する目標値】
【下段左: R1目標値 下段右: 第2次からの目標値】

基本目標(2) 子ども育みを支えるまち ~若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる~

(ア) 教育

										(指導室)		
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度				
10	ICTを活用した校務支援システムの導入	新規	市内小中学校数(17校)のうち、校務支援システムを導入した学校数(1校)	小学校1校	累計小学校1校	累計小学校6校	市内全小中学校(小学校11校・中学校6校)	累計17校 市内全小中学校(小学校11校・中学校6校)	/	全小中学校に校務支援システムの導入が完了し、成績管理等の面において校務の負担軽減につながっている。	他市町村と比較して、先進的な取組であると思う。全小中学校で導入済であるとの結果のため、今後はこのシステムがどのように教育に活かされ、どの点が教師の校務負担軽減につながっているのかを確認してほしい。	

										(指導室)		
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度				
11	学校満足度調査「学校は安心して学べる環境である」保護者の割合	新規	年度末に行う学校評価における基礎資料となる保護者アンケート結果から積算	84%	87%	88%	88%	90% そう思う・どちらかと言えばそう思う割合90%	90%	令和元年度末に新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休校があったが、各校からの積算データでは、おおむね目標値の達成が図られている。	保護者からの高評価は大変喜ばしいことと思う。新型コロナウイルス感染症による休校等の対応は少なからず児童の心身に与える影響はあると思われる。今後も同様の状況が継続するよう各校には児童の安心・安全のための対策を行ってほしい。	

【上段左: R1実績値 上段右: 修正する目標値】
【下段左: R1目標値 下段右: 第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

(ア) 教育

(指導室)

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
12	いじめ・不登校等の問題行動の予防プログラムの実践校	新規	市内17校中の実践校数 (現状の施策【Q-U調査含む】実施校数)	0校	1校 (17校)	5校	8校	10校		子どもを取り巻く環境の多様化により、子どもの内面を理解することが難しい状況になったことから、本調査の価値が高まり、講師派遣研修を併せた活用を希望する学校が着実に増えている。	いじめ問題はすべての学校に潜在していると考えられるべきであり、既存の教職員では人的不足が懸念される。講師の増員を図るなど人的不足の解消も視野に入れて対応を行ってほしい。また、本プログラムの実践校が着実に増加していることは大変素晴らしいことだと感じます。今後も本プログラムの必要性などを各学校へ継続的に説明を行い、最終的には市内全校が実践校となる取組となるよう頑張ってもらいたい。	本調査の価値が高まったこと、講師を2名に増員し、研修の実施体制を充実させたことから実施校が増えると考えられる。
								9校	10校			

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

(イ) 結婚

(総合政策課)

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
13	出会いのイベント回数・参加者	新規	出会いのイベント回数・参加者の累計値	1回 ・52人	累計2回 ・174人	累計3回 ・256人	累計5回 ・375人	累計6回 ・431人		令和元年度は、昨年度新規に開催した婚活セミナー付の出会い創出イベント「恋するハロウィン婚」のみを開催し、56名の参加があった。計画期間の5年間としては、参加者数が目標対比86.2%に留まったが、当初計画時よりも1回多くイベントを開催することでできた。(当初計画：累計5回・500人) 次期総合戦略においても、出会いの創出を図ることとしており、蓄積されたアンケート結果を道標にしながら、事業効果が期待されるイベント内容や、新たな実施体制の構築について検討しながら事業実施する。	本出会いイベントの継続は、ひいては行橋市の移住・定住にもつながる施策であると思う。毎年度同じようなイベントを行うのではなくイベントのバリエーションを増やしていくこともある程度は必要であると感じる。 今後はコロナ禍でのイベント運営も大変な状況であると考えられるため、その点についても頑張ってもらいたい。	
								累計7回 ・500人	累計50人 (R6までに 累計250人)			

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

(ウ) 出産・子育て

										(子ども支援課)		
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度				
14	ファミリーサポートセンター登録者数	新規	子育ての支援を受けたい会員と子育ての支援を行いたい会員の登録者数の総計	0名	0名	56名	212名	376名 300名	500名	ファミリーサポートセンター事業は平成29年11月に開始。子育ての支援を受けたい人(おねがい会員)と子育ての支援を行いたい人(サポート会員)が会員登録をし、会員が相互に援助活動を行うための調整を行う事業である。令和元年度も目標を達成できたが、保護者の事業に対する認知度が依然低い。また、援助活動の実績数も伸びたものの、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で鈍化している。今後は、感染症対策を取ったうえで会員数とともに新規の利用者を増やしていきたい。	登録者数は目標達成しているが、おねがい会員とサポート会員のマッチング状況について、確認を希望している。また、いまいちどのようなことをやっているかわからないという方もおられると思う。市民に対しての広報のやり方なども検討していただきたい。	
15	乳児家庭全戸訪問件数	新規	出生数に対する訪問数の割合	97%	99%	99%	99%	102% 99%	100% 99%	生後4か月までの家庭の訪問(当市は概ね生後2か月で訪問)を実施している。前年度出生で今年度訪問実施となる児が発生するため100%を超えている。経年的にも訪問実績は高い数値を維持しているため、今後は訪問の内容に対する満足度等を指標とできるように検討していく。	訪問実績値は素晴らしい成果だと思う。内部評価にもあるとおり今後は訪問時の対応・内容などに重点をおき、適宜満足度調査を行うなどして、訪問業務の改善を図っていただきたい。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

(エ) 就労支援

										(子ども支援課・学校管理課)		
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度				
16	子どもの預かり制度の利用者数	8,000人(平成26年度)	アンファン利用者実績 H27 586人(全体963人) H28 821人(全体1,217人) H29 1,087人(全体1,618人) H30 745人(全体1,122人) R1 673人(全体1,036人) 児童クラブ利用者実績 H27 8,857人 H28 10,174人(14.8%増) H29 10,615人(4.3%増) H30 :11,727人(10.5%増) R1 12,432人(6.0%増)	9,443人	10,995人	11,701人	12,472人	13,105人 12,700人	13,999人	<アンファン> 平成29年度まで利用者数が伸びていたが、近年は減少傾向にある。今後、周知活動に努めつつ、利用しやすい環境整備などを検討していきたい。 <児童クラブ> 平成31年実績において目標値を上回った。平成31年度においても出来る限り児童を受け入れているため、待機児童を出さずがなかった。	目標値の達成状況は非常に喜ばしいことである。共働きの世帯の増加により、児童クラブなどの預かり制度が利用できるということは大変助かるという声がたくさんあると思う。その反面、児童クラブに通いたくないという声も少なからずあることを聞く。この点について、利用状況を踏まえ、アンケート調査を行うなどしてどの部分において保護者・生徒の不満があるのかの把握をし、改善をしていただきたいと考える。 また、アンファンの利用者数が減少傾向となっているようだが、周知不足なのかそれとも他に原因があるのか調査した方がよいと思われる。(使い勝手がよくないなど)	

【上段左：R1実績値 上段右：変更した目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

基本目標(3) 学びが仕事へ、仕事子どもたちの学びへつながるまち ~地方における安定した雇用を創出する~
 (ア) 教育

(指導室)

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
17	職場体験を実施する新規の職種数	新規	年度毎の新規開拓職種数	新規 0職種	累計 2職種	累計 7職種	累計 7職種	累計 8職種	累計 8職種	十分な体験機会の確保や生徒の移動などが困難で、新規の職種をこれ以上開拓することは難しいため、今後は、既存の職種において、より充実した体験学習が実施できるよう職場体験の在り方を探る必要がある。	令和2年度以降は新規ではなく、既存の職種での職場体験の実施を行っていくことであるため、その内容の拡充に重点をおき、事業を進めていってほしい。適宜体験者への調査を行い、以降の職場体験学習に活かしてほしい。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
 【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

(イ) 就労・創業支援

(商業観光課)

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
18	起業相談件数	新規	市役所及び商工会議所への相談件数の合計	13件	累計 21件	累計 48件	累計 69件	累計 71件	年間合計 60件 (5年累計300件)	目標の数値には達していないものの、毎年10件前後コンスタントに相談が行われている。また、相談者の中から起業する事業者がおり、取組の成果が出ていると考えられる。	コロナ禍において廃業する事業所・企業等がある中、新たに起業する事業者も増加している。今後も市の重点項目の一つとして位置づけていくことが必要だと考える。また、相談が増加するよう広く広報活動を行うなどして対応してほしい。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
 【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

(ウ) 農産物・水産物の開発・高付加価値化

											(農林水産課・商業観光課)	
指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度				
19	新規の従事者数	新規	「ゆくはしブランド」の商品に携わる新規の従事者数 ※(工)農産物・水産物の開発・高付加価値化、「ゆくはしブランド」商品の開発数とリンク	0人	累計3人	累計3人	累計15人	累計15人 累計16人	累計17人	市特産のいちじくを使った「いちじくラスク」の開発を行ったが、新規の従業者は創出できなかった。 JA・漁協・観光協会等で検討委員会(案)などを設立して本格的に開発に向けて議論をしては如何か。 「いちじくラスク」を聞いたことがないので、もう少しPRに力を入れては如何か。		
											(農林水産課)	
20	行橋市魚市場の取扱量	1,600トン (平成28年度)	公設卸売市場の年間取扱量 第5次行橋市総合計画の目標値ベースを採用	-	1,480トン	1,453トン	1,484トン	1,838トン 1,550トン	1,850トン 1,530トン	令和元年度において魚市場の取扱量は前年と比べかなり増加傾向となっている。その要因の1つであるハモについては、魚市場での取引が「せり」から「相対」に移行したことにより値段が安定し、取扱量が増加してきた。今後、販路拡大についても更なる取組に努めていく必要がある。	水産物の取り扱いが厳しい中積極的な取り組みが行われている点について評価をする。今後も継続するよう販路拡大などを模索し、新たな需要の獲得に努めてもらいたい。	
											(農林水産課)	
21	水産加工品(牡蠣)の売上	新規	加工品開発した牡蠣の年間の売上高	-	-	0千円	600千円	800千円 1,450千円	1,000千円 650千円	行橋市ブランドで取上げている、牡蠣の加工品(牡蠣飯のもと、牡蠣グラタン、牡蠣の薫製)3品については、平成29年度に完成した。平成30年度には、異物感知機(X線)とスチームコンベクションオープン魚市場加工所に導入した。今後は、労働力の確保や安全安心な食品製造に向けた様々な課題を整理し、牡蠣を中心とした水産物の活性化に向け、牡蠣の加工品開発の売上が増加するようPRや販路拡大を図っていききたい。	水産物の加工は業者や消費者のニーズに対応するため、大事なことだと認識している。新たな顧客獲得のため、PR活動の充実や販路拡大などを図り、売上額の増加につなげていってほしい。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

基本目標（4） 地域を支えあい、交流しあうまち ～時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する～

（ア）教育

※再掲

（指導室）

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
1	学校満足度調査「学校は楽しい」児童生徒の割合	80% (H26年度)	年度末に行う学校評価における基礎資料となる児童生徒アンケート結果から積算	85%	86%	86%	89%	92%		令和元年度末に新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休校があったが、授業や学校行事はほぼ平常どおり実施されていることから、各校からの積算データでは、目標値の達成が図られている。	コロナ禍での学校休校により、生徒への影響が懸念されたが、非常に高い実績値であり大変よいことである。しかしながら、今後もこのような状況は継続されると思われるため、継続的な確認及び取り組みを期待する。 また今後は「楽しい」の定義についても少し掘り下げる必要があると考えるため、その点について今後期待する。	
								学校が楽しい・どちらかと言えば楽しい割合92%	90%			

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】

【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

（イ）地域振興

※再掲

（商業観光課）

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
3	市の観光PRポータルサイトのアクセス数	新規	観光ポータルサイトのアクセス解析ツールを利用し、アクセス数を集計（平成27年度は試験公開中のアクセス数を元に積算）	1,400PV	112,679PV	202,523PV	252,000PV	355,200PV	400,000PV	サイトの周知、掲載内容の更新、見直しをこまめに行った結果、毎年アクセス数を伸ばし、目標値を上回る結果となった。特に季節のイベント情報は閲覧数が多くなっており、引き続きアクセス解析を実施し、利用者のニーズに合った内容となるよう努めたい。	高い数値目標また達成状況で大変喜ばしい状況である。今後はサイトへのアクセス数のみならず、サイト離脱までの時間も把握するとともに、他のページへの誘導するなどして回遊性を高めるよう工夫してほしいと考える。	R1年度の実績値がR2年度の目標値を上回ったため、上方修正。
								300,000PV	340,000PV			

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】

【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

(ウ) 共助社会

										(介護保険課)		
	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
22	見守りの企業連携数	新規	見守りの企業連携数の累計値	5団体	累計 6団体	累計 8団体	累計 9団体	10団体 累計 10団体	 累計 11団体	平成31年度は、生命保険会社に文書依頼し、1団体ではあるが協力を得る企業が増加した。今後、高齢者の更なる増加に伴い、認知症高齢者の増加も見込まれることから、引き続き取り組みを推進する。	高齢社会において本取り組みは重要な取り組みの一つと考える。官民が相互に連携・協力をし、安全・安心なまちづくりの取り組みを今後も継続して行ってほしい。	
											(防災危機管理室)	
23	自主防災組織数	98団体 (平成26年度)	平成29年度末の結成団体	102 団体	103 団体	104 団体	104 団体	104 団体 110 団体		平成29年度に引き続き結成団体を増やすことができなかった。今後は団体数を増やす目標は元より、昨今、高齢化が進む自治会が多く見受けられ、数年後を見据えると組織としての活動が難しくなることが懸念される。防災活動を行っているもの住民の参加率が低く自主防災組織の必要性に対する認識の低下が感じられる。行政としても、地元集會等に参加し、必要性を説き「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という「自助」「共助」の意識付けを住民全体に認知されるための活動を行ってほしい。	「自助」「共助」の意識付けは今後も継続して行っていく必要があると考える。また、もしもの場合の対応策について防災マップなど活用して広く知らせることで日頃の防災意識の増加を図るよう努めてほしい。 また、現役世代の若い方々の自治会への参加呼びかけも必要な施策の一つだと考える。そのような世代の方々に向けて新たな取り組みも今後考えていく必要があると感じる。	

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

地方創生拠点整備に係る施設整備

基本目標(1) 人を惹きつけるまなび溢れるまち ～地方への新しい流れをつくる～

(イ) 観光・イベント

～長井地域ビーチライフインフォメーションセンター～

(都市政策課)

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
1	物販コーナーの年間売上合計金額	新規	物販コーナーの年間売上合計金額の積算値	-	-	-	0千円	0千円		令和元年度は公園整備中であったため、物販は行っておりません。	令和2年度からの運営開始とのことであるため、取り組み内容及び結果に期待をする。	令和2年7月1日より公園全体が供用開始となり、指定管理者が運営を行うこととなります。指定管理者より、さらに高い目標設定の提案がありましたので、変更します。
								0千円	3,000千円			
2	外国人施設利用者数	新規	年間施設利用者から算出	-	-	-	0人	0人		令和元年度利用者の中に、外国人利用者は見受けられませんでした。	令和2年度からの運営開始とのことであるため、取り組み内容及び結果に期待をする。	令和2年7月1日より公園全体が供用開始となり、指定管理者が運営を行うこととなります。指定管理者より、さらに高い目標設定の提案がありましたので、変更します。
								0人	80人			
3	年間施設利用者数	新規	年間施設利用者から算出	-	-	-	0人	3825人	12,000人	本市で行っているゆくはしビーチバレーフェスティバル2019では、参加者、スタッフ、お客さんを合わせて3700人以上の方に、ご利用いただきました。また、他県より、ビーチバレーの練習にこられたかたや、民間のヨガイベントに使用いただき、目標を大きく上回ることとなりました。	目標値がかなり少なく設定されていたが、実際の参加者が多かったことは非常に喜ばしいことである。行橋市の目玉イベントとなるよう魅力あるイベントにするため、参加者、スタッフ、観客などに適宜確認を行い、イベントの拡充をしてもらいたい。また、コロナ禍を意識した運営に努めてもらいたい。	令和2年7月1日より公園全体が供用開始となり、指定管理者が運営を行うこととなります。指定管理者より、さらに高い目標設定の提案がありましたので、変更します。
								100人	9,000人			

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
 【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

基本目標（4） 地域を支えあい、交流しあうまち ～時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する～

（ウ）共助社会

柵市地域交流センター

（生涯学習課）

	指標名(単位)	基準値	積算方法	実績値				評価年度	目標値	進捗状況及び内部評価	有識者会議での外部評価	備考
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度			
4	小売コーナー及びカフェの年間売上金額	新規	小売コーナー及びカフェの売上金額の積算値	-	-	-	7,899千円	8,159千円	/	交流センター内における小売りコーナー及びカフェにつきましては、オープン当初より運営に携わっていた業者が12月末をもって撤退し、現在は地元住民による組織が直接運営しています。3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館期間がありましたが、令和元年度も目標を達成することができました。今後の運営においても、地域運営組織として地元住民の声を直接反映させながら目標達成に向けて取り組んでまいります。	目標達成は良いことであると思う。今後は、地元住民の意見とあわせて、市外の方からの来訪も増加するよう施設内の運営について考えていってほしい。	
								8,000千円				
5	柵市地区人口増減	人口減少抑制値(平成27年度)	当該地区の人口減少がどれだけ抑制できたかの値	△34人	△37人	△20人	△15人	△28人	/	令和元年度は、目標を達成することができませんでしたが、更なる地域活性化につながるよう、地元住民の声を聴きながら、各種イベントの企画・運営等に取り組んでまいります。今後も本施設を拠点とした取り組みを地域の賑わいづくりにつなげ、移住者の増加・定住促進による人口減少の抑制を目指します。	人口減少は東京などの大都市圏を除く自治体も共通の課題であると思われる。各種イベントの企画等により、地域の賑わいづくりを考えているということなのでその点について期待したい。地域活性化とコンパクトシティ構想との兼ね合いもあるとは思われるが、どちらについてもよりよい方向に進むよう期待している。	
								△12人				
6	年間施設利用者数	新規	公民館機能部分の利用者数と小売コーナー及びカフェの利用者数の合計値	-	-	-	20,612人	23,872人	24,000人	令和元年度も公民館部分・カフェ・小売りコーナーともに多くの方にご利用いただき、目標を達成することができました。また、従前の公民館と比較し子どもたちの利用も多く、世代間交流にもつながっています。今後も多世代の利用者が集う拠点となるよう、公民館事業等に取り組んでまいります。	多くの利用があったことは大変喜ばしいことであり、事業成果があったと一定の評価ができる。どの世代も快適に利用できるよう施設の拡充などを検討して、より施設環境にしてほしい。	
								21,000人	21,000人			

【上段左：R1実績値 上段右：修正する目標値】
【下段左：R1目標値 下段右：第2次からの目標値】